

大きな噴石

噴火によって火口から吹き飛ばされる防災上警戒・注意すべき大きさの岩石を噴石と呼んでいます。

特に、20cm以上の風の影響をほとんど受けずに弾道を描いて飛散するものを「大きな噴石」と呼んでいます。

大きな噴石は避難までの時間的猶予がなく、生命に対する危険性が高いため、特に注意が必要です。

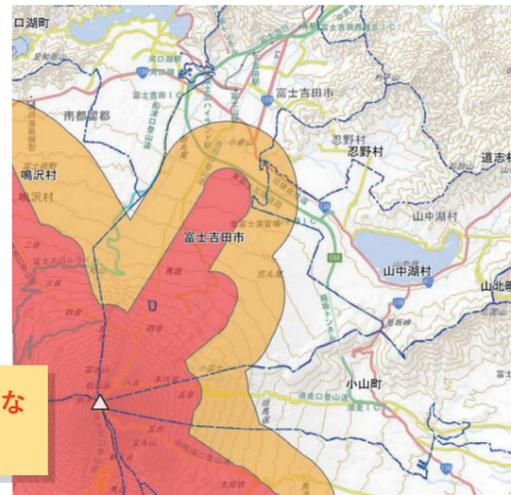
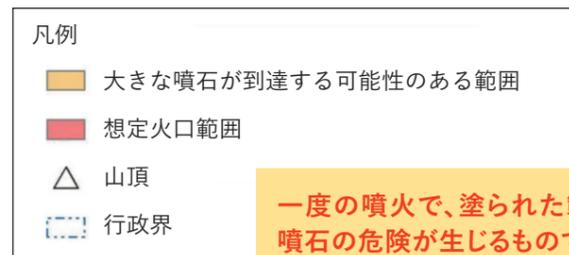
※大きな噴石のドリルマップはありません



気象庁ホームページより

可能性マップ

噴火の規模によって到達する距離が異なることから、大規模噴火の場合、想定火口範囲から4km、小規模噴火の場合、想定火口範囲から2kmの範囲を飛来する可能性のある範囲として示しています。



一度の噴火で、塗られた範囲の全てに大きな噴石の危険が生じるものではありません。

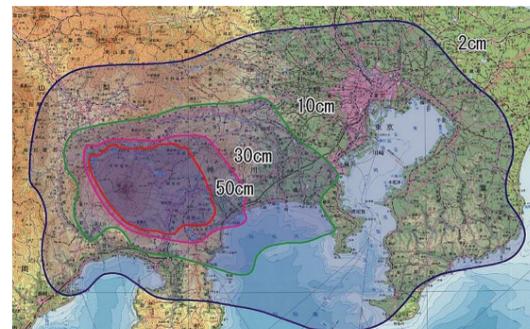
降灰 (小さな噴石を含む)

降灰とは噴火によって火口から空中に噴出された火山灰や小さな噴石が地表に降下する現象です。

直径2mm以下の細かい物を火山灰、直径数cm程度の風の影響を受けて遠方まで流されて降るものを小さな噴石と呼んでいます。噴火が発生して、火山灰が降ってきた場合、近くの堅牢な建物へ避難することが大切です。



可能性マップ



※降灰は今回新たなシミュレーションが行われていないため、平成16年時に作成されたマップが再掲されています
 ※報告書などでは「月別降灰分布図(ドリルマップ)」や「降灰後土石流の可能性マップ」も掲載されています

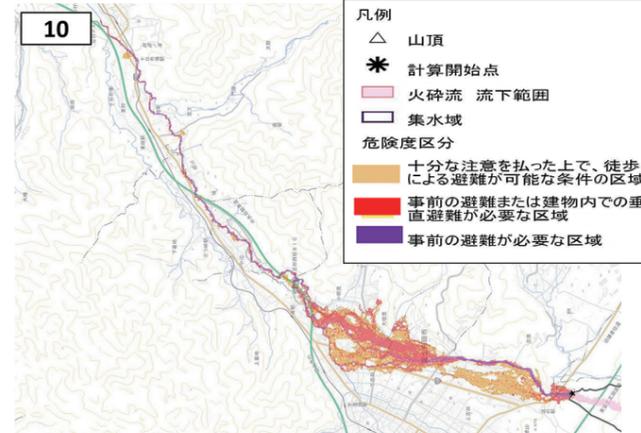
一度の噴火で、塗られた範囲の全てに降灰が広がるわけではありません。

※ほかにも報告書では山体崩壊にも触れ、現時点では発生位置や規模を想定することが困難なため、注意喚起のための「実績図」などが掲載されています

マップ出典: 山梨県「富士山ハザードマップ(改定版)検討委員会の成果を基に作成」

危険度区分

色で危険度を表すことで、どのような避難が適切か示した図です。

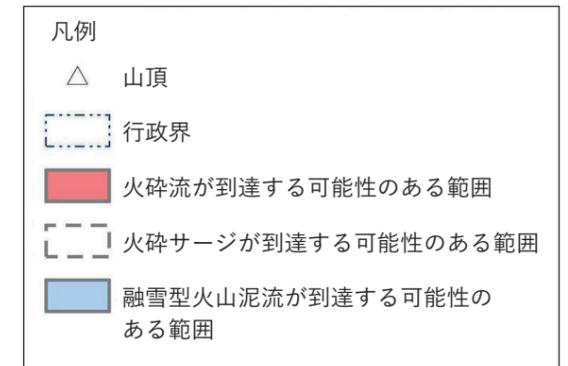
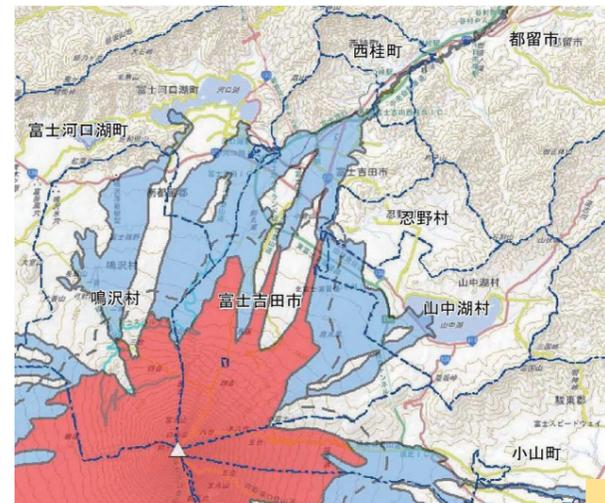


カラーレベル	避難区分	説明
オレンジ	徒歩で避難可	床下浸水が想定されるが「十分な注意を払った上で、徒歩での避難が可能な範囲」
赤	建物の2階以上へ避難可	高水位で徒歩での避難は困難だが「建物の2階以上に避難可能な範囲」
紫	事前の避難が必要な区域	建物の倒壊または2階への浸水のおそれがある区域で「事前の避難が必要な区域」

可能性マップ

ドリルマップを全て重ねるなどして作成され、到達範囲と到達時間の2種類があります。

到達範囲



一度の噴火で、塗られた範囲の全てに融雪型火山泥流や火砕流などの危険が生じるものではありません。

到達時間

